

# 伊勢・志摩の神々



## しくみ

- 伊勢内宮 - 丸山 - 大沼浮嶋
  - 伊勢神宮外宮御正宮 - 津島神社 - 大沼浮島
  - 伊勢神宮外宮古殿地 - 津島神社 - 大沼大行院
  - 寂照寺 - 諏訪春宮 - 大沼浮島
  - 桜木地蔵堂 - 浮島（春宮） - 大沼浮島
  - 神島山頂 - 諏訪前宮 - 大沼浮島
  - 丸興山庫蔵寺 - 諏訪八剣神社 - 大沼浮島
  - 伊勢内宮岩座（推定） - 諏訪秋宮 - 大沼浮島
  - 横山石神社 - 姫宮神社 - 大沼浮島
- 
- 志摩国分寺 - 諏訪本宮 - 大朝日岳
  - 伊雑宮 - 千鹿頭神社 - 大朝日岳
  - 朝熊山頂上 - 浮島社（春宮） - 大朝日岳
  - 宇氣比神社 - 阿夫利神社 - 大朝日岳
  - 畔名神社 - 守屋神社 - 千鹿頭神社 - 大朝日岳
- 
- 金剛證寺奥の院 - 守屋山頂上 - 早池峰山頂上
  - 猿田彦神社 - 奥宮児玉石神社 - 早池峰神社奥宮
  - 葭原神社 - 蓼宮神社 - 早池峰神社奥宮
  - 伊勢神社内宮荒祭宮 - 赤沼子之神社 - 早池峰神社（遠野）
  - 子安神社 - 足長神社 - 早池峰神社（遠野）
  - 猿田彦神社 - 地蔵院 - 早池峰神社（大迫）
  - 栄野神社 - 田辺御頭御社宮司社 - 早池峰山頂上

## 詳細

### ■伊勢内宮 - 丸山 - 大沼浮嶋（出島）

#### 伊勢内宮

祭神天照大御神は邇邇芸命以来天皇の側に祀られていたが、御殿を共にすることを恐れた第10代崇神天皇は、皇居外に祀ることを決意。皇女豊鍬入姫命は大和の笠縫邑に神籬を立てて祀った。その後、第11代垂仁天皇の皇女倭姫命は、新たな場所を求めて、伊賀、近江、美濃などを巡り伊勢国五十鈴川の川上に宮を建てた。

伊勢市宇治館町1



#### 丸山

不明。丸山は縄文遺跡と密接に結びついている例が多い。長野県に多い姓。信濃の丸山氏は信濃国筑摩郡日岐城を本拠とし、桓武平氏の丹羽氏の一族と言われる。

長野県諏訪市

#### 大沼浮島

湖畔にある大沼浮嶋稲荷神社（祭神/宇迦之御魂神）の神池とされ狐の形をしている。沼には大小の葦の島が風や流れに関係なく浮遊し、江戸時代には国の数32あり、その動きで吉凶を占っていたとされる。



沼は白竜湖とも呼ばれ弁財天が祀られている。大円寺『朝日嶽縁起』(1505年)によると、朝日岳の麓に御手洗の「大富沼」があると記されている。

白鳳9年(681)役の小角(役の証覚・役の行者)が弟子の覚道を連れて出羽路に来た折、大谷川(朝日町大谷)のほとりで梵字が記された板碑が流れくるのを見つけ、川をさかのぼり、60余りの島が浮遊する神池大沼を見つけた。湖畔に浮島稲荷大明神を祀り、弟子覚道を別当(大行院)とし朝日岳修験が行なわれた。建久4年(1193)には寒河江荘地頭となった大江広元の進言により源頼朝の祈願所になり、その後も大江家、徳川家、最上家にも祈願所として崇敬された。国指定名勝。山形県西村山郡朝日町大沼

**備考**/浮島は、現在は数も減り、岸に付き動かないことが多いが、動く時は流れや風に関係なく意志があるかのように動き回り驚く。役の小角は梵字が書かれた板碑が流れてきたのを見つけたのだから、すでに大沼は異教徒の浮島信仰の地だったはず。稲荷神社の神池とされるが、「大富沼」が大沼なら元々は出雲系「富一族」の祀る沼だったのだろう。大朝日岳にも大富観音が祀られていた。元々弁財天や龍神の神池に稲荷神が祀られたのだと考えられる。あるいは、730年に「大沼社を南西の丘に移す」記述があるが、その時に稲荷社にすり替えられたのかもしれない。いずれにせよ、古いしくみはほとんどが稲荷神社ではなく大沼の鳥居の立つ「出島」(写真)が起点となっている。弁財天を祭神とする大沼浮島社(仮称)はここにあったはず。全国に散らばる浮島神社の総本宮ではないか。多くの神社の神池に浮島のごとく島が作られ弁財天や市杵島姫が祀られているのも本来は分社だったのではないだろうか。池に囲まれた古墳すらも浮島に見えてくる。そして、弁財天は瀬織津姫とする考えがある。古代史を探る時、きっと浮島信仰は重要な鍵になるにちがいない。



## ■伊勢神宮外宮御正宮 - 津島神社 - 大沼浮島

## ■伊勢神宮外宮古殿地 - 津島神社 - 大沼大行院

### 伊勢神宮外宮御正殿

内宮鎮座より500年後。雄略天皇の夢に天照大神が現れ、「自分一人で、神宮にいるのは甚だ苦しい。食事も安らかにとることができないので、丹波にいる私の御饌津神(みけつかみ)である豊受大御神を伊勢に迎えてほしい」とお告げをされた。

伊勢市豊川町279



### 伊勢神宮外宮古殿地

伊勢神宮では20年に1度、宮域内のすべてのお宮を造り替え、その一切を新築にする。伊勢神宮においては、建物(社殿)を取り壊して、一旦、更地にしてから新築するのではなく、現在の建物の横に、もう1つ敷地があり、その敷地に新しい社殿を建てる。したがって、現在の社殿を維持したまま、新しい社殿を「隣の土地」に、もう1つ建てることになる。これを「遷宮(せんぐう)」と呼ぶ。

伊勢市豊川町279

### 津島神社

勾玉66点・管玉286点など計362点が発見された「天王垣外遺跡」 新屋敷  
天王森は、古来上天王宮と称し、天王祝の奉仕する所であった。

長野県岡谷市中央町3丁目1

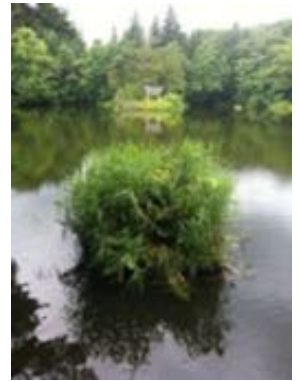
**備考** 大沼浮島を背にしている

**大沼浮島** ※上記参照



## 大沼大行院

大行院は役の証覚の弟子覚道の直系であり、現当主の最上氏は54代目を数えます。浮島稲荷神社は、源家、徳川家、大江家、最上家など時の権力者の尊崇厚く祈願所として加護を受けてきたことから、多くの貴重な文書が所蔵されています。西村山郡朝日町大沼



## ■寂照寺 - 大五輪の五輪塔 - 諏訪春宮 - 大沼浮島

### 寂照寺

浄土宗鎮西派知恩院末。本尊は阿弥陀如来。徳川家康の孫で秀忠の娘、豊臣秀頼の室千姫の菩提を弔うため、延宝五年(1677)に知恩院第37世寂照知鑑上人によって創建された。伊勢市中之町101



### 大五輪の五輪塔

清丸稲荷神社の境内にある。花崗岩製で高さ3.4m。江戸初期以前の古塔としては県内最大。さまざまな説があったが、平成20年に山形大教授で宗教史研究者の松尾剛次氏が調査し、1300年前後に叡尊の弟子が造った鎌倉の極楽寺のものと一致したことや、3.4mという高さが西大寺に現存する叡尊の墓（五輪塔）に匹敵する大きさであることから、鎌倉時代後期に建立され、叡尊の遺骨が分骨された可能性があると考えられている。

叡尊は、法然や親鸞、日蓮などと並び称される鎌倉新仏教を代表する宗教者。戒律の実践を旨とする真言律宗を再興して多くの寺院を復興したほか、貧困者やハンセン氏病患者の救済といった社会事業にも取り組み、その死を悼んだ伏見上皇から「興正菩薩」の尊号を贈られたという偉大な人物。伊勢神宮には3回も参詣。有名なのは「元寇」を撃退するため弟子たちと行った祈祷。モンゴル兵を殺すのではなく、大風で船を追い返すことを祈ったところ、天に通じて蒙古は撃退され、叡尊の法力は天下にとどろく。

この五輪塔がある付近には、当時、弘正寺という真言律宗の大きなお寺があった。天照大神は大日如来を本地仏としており、内宮は胎蔵界を、外宮は金剛界をあらわしていると説く、神仏習合の一種である「両部神道」の拠点となっていた。

[https://hanwashi.blogspot.jp/2017/02/blog-post\\_4.html](https://hanwashi.blogspot.jp/2017/02/blog-post_4.html)

三重県伊勢市楠部町

**備考** 清丸稲荷神社の背が大沼浮島に向いている。

### 諏訪大社下社春宮

祭神/ 八坂刀売神（やさかとめのかみ）建御名方神の妃。

諏訪大社は、上社・下社に分かれており、本来、上社に建御名方神、下社に八坂刀賣神を祀っている。また、上社には本宮と前宮、下社には秋宮と春宮があり、四社を総称して諏訪大社という。



上社と下社では、奉祀する神職の長が、上社では神別（祭神の子孫）、下社では皇別（皇族の子孫）とされている。

八坂刀売神は、安曇氏系海神の女とする説がある。建御名方神の「名方」は、本居宣長によると、阿波の名方郡名方郷に由来するとある。また、安曇郡式内川会神社の社伝には、「建御名方命の後は海神の女なり、太古海水国中に氾濫、建御名方とその後には治水のために水内山を破って水を流し越海へ注ぎ、始めて平地を得た。」とある。また、下社でおこなわれる御船祭で用いられる船は、海上運搬用の大型竜骨船であるという。

長野県諏訪郡下諏訪町大門193

**大沼浮島** ※上記参照

## ■桜木地蔵堂 - 浮島（春宮） - 大沼浮島

### 桜木地蔵堂

江戸時代には了運尼禅宣上人がここに小庵を建立し、御本尊をお祀りしていたと伝えられる。山田奉行を勤めた大岡越前守忠相もこの地蔵を訪れ江戸町奉行に出世したという伝えから、出世地蔵とも呼ばれている。伊勢市勢田町

### 浮島（春宮）

下社春宮脇を流れる砥川の“中之島”。祓戸の神を祀る浮島社がある。諏訪郡下諏訪町

**大沼浮島** ※上記参照



## ■神島山頂 - 諏訪前宮 - 大沼浮島

### 神島山頂

ゲーター祭「天に二つの日輪なく、地に二皇あるときは世に災いを招く。若し日輪二つある時は、神に誓って偽りの日輪は是の如く突き落とす」という古き由縁を表し、諸悪を払い、大漁祈願と無事平穏な年の願いを込めた祭です。グミの木で作られた直径2m程の「日輪」に擬した輪を、白装束を纏った勇敢な男たちが長い女竹の先に紙矛をつけたものでアワを突き空高く刺し上げます。起源は太陽の復活を祈るもの。鳥羽市神島

### 諏訪大社上社前宮

上社には御神体はなく、神別の大祝（おおほうり）、すなわち人間を神とする。八歳の童男をもって、大祝とし祀る。大祝は職にある間、清浄を旨とし、郡外へ出ること禁じられる。前宮祭神をミシャグジ神とする説もある。ミシャグジとは木や石に降り着く精霊・霊魂で、人にもつくらしい。あるいは、大祝をミシャグジ神としたのかもしれない。長野県茅野市宮川 2030

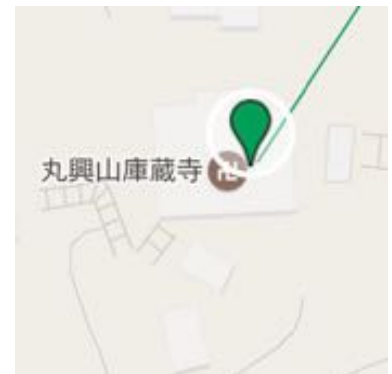
**大沼浮島** ※上記参照



**■丸興山庫蔵寺 - 諏訪八剣神社 - 大沼浮島**

**丸興山庫蔵寺**

天長2年（825年）に弘法大師が、伊勢志摩の霊峰である朝熊山・金剛証寺の奥の院として、虚空蔵菩薩を安置し、国土鎮護のために開山したとのいわれがある、鳥羽市はもちろん三重県下でも屈指の古刹です。三重県鳥羽市河内町



**八剣神社**

祭神/ 八千矛神、日本武尊、誉田別尊

特殊神事として、御渡神事がある。諏訪湖中高島の里（浮島城）に鎮座していたが、豊臣秀吉の高島城築城に際し現在地に遷座。日根野高吉は、1592年（文禄元年）から1598年（慶長3年）にかけて、現在の地である諏訪湖畔の高島村に新城を築く。その際村人には漁業権や賦役免除権などの特権を与える代わりに小和田へ移転させた。高吉は織田信長、豊臣秀吉の下で普請を経験していたことから、織豊系城郭として築城し、石垣を築いて天守も上げた。諏訪市小和田 13

**備考** 本殿には合わなかったが境内の真ん中を通る



**大沼浮島** ※上記参照

**■伊勢内宮岩座（推定） - 諏訪秋宮 - 大沼浮島**

**伊勢内宮岩座（推定）**

不明

**備考** この山に何度も線がぶつかってくるので、ここにも岩座もしくは祭祀場があるのだと思う。地形的にも神聖でないはずがない。航空写真で見ると実際にかコンクリートのようなものが見える。同じものが外宮隣の山にもある。伊勢市宇治館町

**諏訪大社下宮秋宮**

例大祭：秋宮で8月1日、遷座祭(お舟祭)：2月1日に秋宮から春宮にお遷した御霊代を春宮に戻す。  
 遷座の行列の後に大きな舟に翁媪二体の人形を乗せ数百人の氏子はその舟を曳く。長野県下諏訪郡下諏訪町5828

大沼浮島 ※上記参照



## ■ 横山石神神社 - 姫宮神社 - 大沼浮島

### 横山石神神社

祭神/天永龍王大明神, 天満大自在天神, 少彦名命, 大己貴命, 倭姫命, 国常立神

天仁年間（1108～9）渦見潟地方旧鵜方村の住人たちが産土神として天永龍王大明神を奉斎し、國常立命、少彦名命、大己貴命、倭姫命の四柱を併せ祀り、五柱を祭神とする。境内に、ここだけしか産出しない天然ラジウム鉱泉の湧出がある。900年という歴史を持ち、ご神体は龍神。この蛇というのは、白蛇で掲示板に貼ってある「横山の石神さん」という昔の民話を読んでみると、白蛇が、石になったり蛇になったりしてお宮婆に度胸だめしをし、お宮婆にこういった。「この森や海辺を鎮め守っている山の石神さんと一緒に、祠に祀ってくれたら願い事を1つ、叶えてやろう。どんなことでも必ず叶えてやるぞ」と約束したことから始まったとされている。

三重県志摩市阿児町鵜方874-4



### 姫宮神社

祭神/八坂刀売神（建御名方神の妃・諏訪大社下社の祭神と同じ）

大沼浮島 ※上記参照

## ■ 志摩国分寺 - 諏訪本宮 - 大朝日岳

### 志摩国分寺

45代聖武天皇の勅願によって、奈良時代天平13年(741)に一国一寺、国ごとに僧寺（金光明四天王護国之寺）・尼寺（法華滅罪之寺）の二寺が国家の安泰、人民の幸せを願って建立された。三重県志摩市阿児町国府3476



## 諏訪大社上社本宮

祭神/建御名方神（たけみなかたのかみ）『古事記』の葦原中国平定（国譲り）の段において、大国主命の御子神として登場する。母は沼河比売（奴奈川姫）とされる。『先代旧事本紀』には建御名方神が信濃国諏方郡の諏方神社に鎮座すると明示されている。八坂刀売神（やさかとめのかみ）建御名方神の妃。なお、本来の祭神は出雲系の建御名方ではなくミシヤグチ神、蛇神ソソウ神、狩猟の神チカト神、石木の神モレヤ神などの諏訪地方の土着の神々であるという説もある。

諏訪市中洲宮山1番地

**備考** 境内の中央を通っている

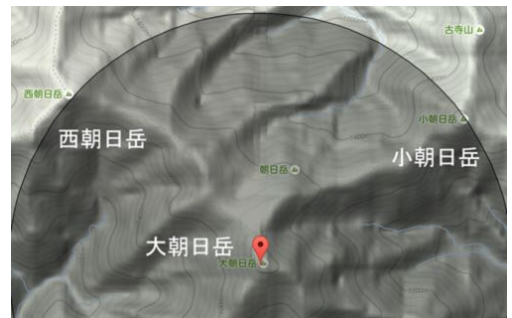


## 大朝日岳（朝日連峰・朝日岳）

磐梯朝日国立公園の朝日連峰主峰。『三大実録』には「出羽国の白盤神と須波神に従五位下を授けた」とあり、須波神は朝日岳のことで龍蛇神の諏訪神とされる。大円寺『朝日嶽縁起』（1505年）によると朝日嶽大富権現は、大富権現・女躰権限・子守権現の三処であり、本地佛は、大富権現は弁財天（初頭神は大山祇神）、女躰権現は大日如来（木花咲耶姫命）、子守権現は正観音で大山祇神の娘溝織姫命であるとする。役の小角が出逢った女神は女躰権現。朝日嶽信仰は執権北条時頼（1246～56）によって千年封じされたまま現在に至る。山形県西村山郡朝日町。

**備考**

三処とは、ほぼ二等辺三角形に位置する大朝日岳（大富）・小朝日岳（子守）・西朝日岳（女躰）ではないかと思われる。大富権現の「富」は出雲族の富族を表すのでは。朝廷が朝日岳（諏訪神）に位を授けたのは平安時代の貞観地震の翌年のこと。過去に朝日岳に対してやましい事実があったことを裏付けられる。



## ■伊雑宮 - 千鹿頭神社 - 大朝日岳

### 伊雑宮

式内大社 皇大神宮（伊勢神宮内宮）の別宮の一社。10社ある内宮別宮の中で荒祭宮、月讀宮、瀧原宮に次ぐ順位。度会郡大紀町の瀧原宮とともに、「天照大神の遙宮（とおのみや）」と呼ばれる。祭神/天照坐皇大神御魂 伝 伊佐波登美命と玉柱命（瀬織津姫命）

志摩市磯部町上之郷374

**備考** 遷宮されるので古殿地との間をポイントにした。



### 千鹿頭神社

内県神（建御名方命の御子神）。上社の摂社で、その社名が示す通り、上社御頭祭に供される鹿を用意する神社。御頭祭は、前宮十間廊に七十五頭の鹿の頭を供えたという。

諏訪市豊田字宮垣3903





## 大朝日岳（朝日連峰・朝日岳）

※上記参照

## ■朝熊山頂 - 浮島社（春宮） - 大朝日岳

### 朝熊山頂

825年（天長2年）に空海が真言密教道場として南峯東腹に金剛證寺を建立した聖なる山。

伊勢市朝熊町



### 浮島社（春宮）

祭神が祓戸大神 中州にある。大祓式(夏越祓と茅輪)では「布を裂く」神事が行われる。下諏訪町



## 大朝日岳（朝日連峰・朝日岳）

※上記参照

## ■宇氣比神社 - 文出八剣神社 - 阿夫利神社 - 大朝日岳

### 宇氣比神社

冤罪 占いの神様。本殿と拝殿の間に敷き詰められた白い玉石を洗い清める「白石くり」や、本殿、拝殿以下、「七社」「祓床」「門神」などすべての拝礼場所にかける「紙垂（しで）」など、古式による特殊神事が伝承されている。志摩市磯部町坂崎

### 文出八剣神社

鎮座の年代は災禍などで大方の古文書が散逸して不詳であるが、八剣神社の鎮座は天文年間から永禄年間（一五四〇～一五六〇）頃であろうと推測される。

当時武田信玄の家臣篠原讃岐守吉忠が、天文十一年(一五四二)七月に人誣し、諏訪明神祭事の支配を命ぜられ、踏出郷(文出)の地頭となり住していた。御社宮司社は極楽寺と共に讃岐守の守社であった。当時は人家も少なく、八剣神社の鎮座は当時かその前後に産土神として祭られたのではないかと考えられる。

<http://yatsu-genjin.jp/suwataisya/mieru/yaturugi2.htm>

削除



### 阿夫利神社

不明。諏訪市岡村1丁目14

## 大朝日岳（朝日連峰・朝日岳） ※上記参照

備考 文出八剣神社と阿夫利神社のいずれかだと思う。

## ■ 畔名神社 - 物部守屋神社 - 千鹿頭神社 - 大朝日岳

### 畔名神社

祭神/正勝吾勝勝速日天之忍穗耳命・天穗日命・天津彦根命

もと「日天八王子」と称えられていたのを、明治5年（1872）に、「畔名神社」と改称したもののようであるが、創立の事情を知る資料はない。近隣他社の「日天八王子社」「八皇子社」の創立年代からみて、室町時代初期から祀られていたのではないかと推測される。

志摩市大王町畔名 5 4



### 千鹿頭神社

豊田の千鹿頭神社の分祠だろう。古くには先住民族の一であった安曇族の首を供えていたのではなかろうかと妄想する。鹿とは志賀であるから。長野県茅野市ちの



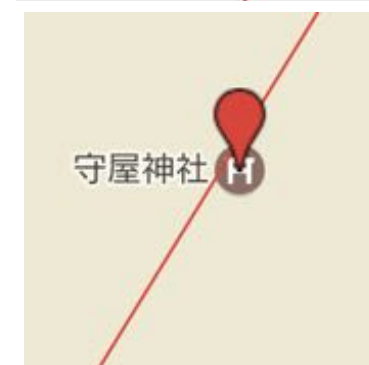
### 物部守屋神社

祭神/物部守屋大連 勧請年月不詳

<http://yatsu-genjin.jp/suwataisya/sanpo/moriya.htm>

資料館の係りの人の話では物部守屋は、蘇我氏との戦いに敗れこの地まで落ち延びて、この地に祭られたと言っていた。守屋山の頂上には磐座があり、守屋神社の奥の宮とされている。物部守屋を祭る守屋神社の奥の宮が守屋山の頂上にあり、その守屋山を御神体とする諏訪大社上社の神官が、古代この地を治めていた洩矢族の末裔・78代目の守矢家。どちらのモリヤも同じ守屋山を御神体としている。

[http://blog.goo.ne.jp/n\\_ishii517/e/c1f60192e2a698b130c19816fb6433d7](http://blog.goo.ne.jp/n_ishii517/e/c1f60192e2a698b130c19816fb6433d7)



## ■ 金剛證寺奥の院 - 守屋山頂上 - 早池峰山頂上

### 金剛證寺奥の院

創建は6世紀半ば、欽明天皇が僧・暁台に命じて明星堂を建てたのが初めといわれているが、定かでない。平安時代の825年（天長2年）に空海が真言密教道場として当寺を中興したと伝えられている。なお鳥羽市河内町丸山539の庫蔵寺（真言宗御室派）は、空海が当寺の奥の院として建立したという。金剛證寺はその後衰退したが、14世紀末の1392年（明德3年）に鎌倉建長寺5世の仏地禅師東岳文昱（とうがくぶんいく）が再興に尽力した。これにより東岳文昱を開山第一世とし、真言宗から臨済宗に改宗し禅宗寺院となった。

室町時代には神仏習合から伊勢神宮の丑寅（北東）に位置する当寺が「伊勢神宮の鬼門を守る寺」として伊勢信仰と結びつき、「伊勢へ参らば朝熊を駆けよ、朝熊駆けねば片参り」とされ、伊勢・志摩最大の寺となった。



### 守屋山頂上

守屋山の麓に諏訪大社がありますが、諏訪大社には本殿と呼ばれる建物がなく、この守屋山をご神体として祀っています。そして、この諏訪大社では古来より「御頭祭（おんとうさい）」という祭りが行われてきました。

「御頭祭」は、諏訪の神と呼ばれる“ミサクチ神”の祭祀であり、この祭



では「おこう」（御神とか神使と書く）と呼ばれる役割の15歳未満の“少年”が主役であります。「おこう」と呼ばれるこの少年は、まず「御費柱（おにえばしら）」とも呼ばれる柱に“縛り”つけられます。これは、少年を“生贄”とするための柱です。次に人々は少年を柱ごと竹のむしろの上に押し上げ、そこには小さな“刃物”も登場しますが、そこで諏訪の国の司からの使者や神官が現われ、その後に縛られていた少年は解き放たれます。少年を縛って生贄にし、刃物を用いて殺めるところを救われる・・・どこかで聞いた話どころか、そのまま「イサクの燔祭」の内容であります。そしてミサクチ神とは「ミ（御）・イサク・チ（接続語）」であり、この「御頭祭」は完全にイサク神を祀っているお祭りであるとされています。

<http://tenkataihei.xxxblog.jp/archives/51912021.html>

長野県諏訪市・伊那市

**備考** 三角点とは少しずれている。



### 早池峰山頂上

大同元年（806）、来内村の獵師藤藏が山中で十一面観音の尊像に遭遇。感銘して、後に早池峰山山頂に奥宮を建立した。岩手県宮古市・遠野市・花巻市

## ■ 猿田彦神社 - 奥宮児玉石神社 - 早池峰神社奥宮

### 猿田彦神社

猿田彦大神と、その子孫の大田命を祭神とする。日本神話によれば、猿田彦神はニニギの天降りの先導を終えた後、伊勢の五十鈴川の川上に鎮まった。倭姫命世記によれば、その子孫の大田命は天照大神を祀る地として倭姫命に五十鈴川川上の地を献上した。大田命の子孫は宇治土公（うじのつちぎみ）と称し、神宮に玉串大内人として代々奉職したが、その宇治土公が邸宅内の屋敷神として祖神の猿田彦を祀っていた。明治時代に入り、神官の世襲が廃止されることになって、屋敷神を改めて神社としたのが猿田彦神社である。

三重県伊勢市宇治浦田2丁目2-1-10



### 児玉石神社

御祭神は児玉彦命、玉屋命で、児玉彦命は建御名方命の御孫にあたります。創建年代は不詳

<http://www.komainu.org/nagano/suwasi/kodama/kodama.html>

大石がゴロゴロ「諏訪七石」の一つ「児玉石」と言われる所以（ゆえん）でしょう。まだ諏訪湖が今よりズーッと広がった頃、村娘が渚で青く光っているものを拾い上げた。それはヒスイの玉だったが、肩まで水に浸かったはずなのに袖は濡れていなかった。村長（むらおさ）に話すと、それは「神様の玉に違いない」ということになった。そこで、昔から鎮守として崇めてきた「大石様」の一面に祠を建てて、「児玉石様」として祀ることになった。

<http://yatsu-genjin.jp/suwataisya/sanpo/kodama.htm>

長野県諏訪市湯の脇1丁目12-3



## 早池峰神社奥宮

大同元年（806）、来内村の獵師藤藏が山中で十一面観音の尊像に遭遇。感銘して、後に早池峰山山頂に奥宮を建立した。

岩手県宮古市・遠野市・花巻市

## ■ 葭原神社 - 蓼宮神社 - 早池峰神社奥宮

### 葭原神社

祭神は、佐佐津比古命（ささつひこのみこと）、宇加乃御玉御祖命（うかのみたまのみおやのみこと）、伊加利比賣命（いかりひめのみこと）。3柱とも田畑の守護神で五穀豊穰の神とされる。倭姫命が定めた神社である。『皇太神宮儀式帳』（延暦儀式帳）に記載があるので、同帳成立の延暦23年（804年）以前から存在したことになる。中世に社殿が荒廃し、明治初期には社地不明となっていた。神宮では明治の初期、社殿が中絶した摂末社21社の再興を目指した。まず1874年（明治7年）、宇治山田神社・鴨下神社・津布良神社・大津神社の再興が実現した。続いて1875年（明治8年）には5社の再興を教部大輔に願い出た。この願い出は聞き届けられなかったが、1880年（明治13年）に御塩殿神社の東西御倉の古材をもって葭原神社と小社神社の社殿が造営された。残る15社については再興されることはなかった。

三重県伊勢市中村町字向垣外813



### 蓼宮神社

「祭神は草奈井比賣命（くさないひめのみこと）で、諏訪大神の御子・出早雄命の御子神で安産守護・延命長寿・家内安全・産業開発の神である。創立沿革は、神代で不詳であるが祭神は貞観八年従四位下に叙せられた」とあります。『三代実録』に「貞観八年六月甲戌朔授信濃国老位会津比売命并草奈井比賣命従四位」、神祇資料第十三巻に「会津比売命草奈井比売 諏訪郡北真志野の村にててみや(蓼宮)神社といふあり」と紹介しています。長野県諏訪市湖南

<http://yatsu-genjin.jp/suwataisya/sanpo/tatemiya.htm>

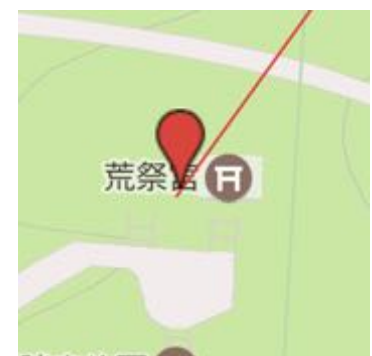


早池峰神社奥宮 ※上記参照

## ■ 伊勢神社内宮荒祭宮 - 赤沼子之神社 - 早池峰神社（遠野）

### 伊勢神社内宮荒祭宮

祭神/天照坐皇大御神荒御魂。天照大神の荒魂。荒祭宮は内宮正宮北方（御正宮の後方）にある。別宮とは「わけみや」の意味で、正宮に次ぎ尊いとされる。荒祭宮を「荒魂を祭る宮」の意味とするのが定説である。『神宮雑例集』によると、創建は垂仁天皇26年10月であり、内宮の正殿と同時に建てられたという。天照大神荒魂を祀る内宮の別宮は、境外に瀧原竝宮（たきはらならびのみや）があるが、荒祭宮は内宮に月讀宮、月讀荒御魂宮、伊佐奈岐宮、伊佐奈弥宮、瀧原宮、瀧原竝宮、伊雑宮、風日祈宮、倭姫宮と、あわせて10ある別宮の中で、第1位とされる。三重県伊勢市宇治館町



## 赤沼子之神社

上川と宮川の中洲に鎮座する神社です。昔は赤沼の池という底無しの沼がありカップ伝説が残っています。このカップは力比べに負け、骨接ぎの方法を人間に教えたといひ、その家は代々骨接ぎとして繁盛し、今では整形外科医院を開いているそうです。

長野県諏訪市四賀



## 早池峰神社（遠野）

早池峰山（1917m）山頂にある奥宮に対する里宮。大同元年（806）、来内村の獵師藤蔵が山中で十一面観音の尊像に遭遇。感銘して、後に早池峰山山頂に奥宮を建立した。その後、藤蔵は普賢坊と名を変え、現在地には新山宮を建立した。斎衡年中（854～857）、慈覚大師が当地に宮寺を建立し、山頂の霊池に因んで妙泉寺と名づけ、新山宮を神宮とした。明治の神仏分離により、早池峰神社と改称した。遠野市附馬牛町上附馬牛19-82



## ■子安神社 - 足長神社 - 早池峰神社（遠野）

### 子安神社

内宮の所管社30社のうち第30位。祭神は木花開耶姫神。元は宇治館町の産土神であったとされる。大山祇神社の祭神・大山祇神（おおやまつみのかみ）の娘である。瓊瓊杵尊の妻であり、猛火の中で3柱の子を出産したとされる。この神話から、安産、子授け、縁結び、厄除けの祈願が行われる。

三重県伊勢市宇治館町



### 足長神社

当初、ここに足長・手長両神が祀られていたが、手長神は下桑原（上諏訪）へ分祭。

手長さまは異常に手が長く、足長さまはその反対に足がなが〜く・・・その姿はちょっと変わっています。その風貌とは反対に、奇稲田姫を手撫で足撫でしていつくしみ養育された優しい神様です。足摩乳命・手摩乳命（足名椎命・手名椎命とも書きます）の父神は大山津見神で、妹神としてイワナガヒメノミコト、コノハナサクヤヒメノミコトがいます。手長さま足長さまは記紀において、八岐の大蛇に毎年一人ずつ娘をさらわれてしまい、ただ一人残った奇稲田姫もさらわれる時になったので、悲しみにくれる親神として登場します。この時、スサノオに助けられた奇稲田姫はスサノオと結婚し、二人の間にできた子どもの一人が諏訪大明神です。しかし、諏訪においての手長足長さまは、その古墳や遺跡が示すように、諏訪大明神が諏訪に入諏するよりもっと以前からこの諏訪の桑原郷に住み、足長神が手長神をおんぶして諏訪湖で魚や貝を採っていたとも伝えられています。  
[http://www.geocities.jp/sizen\\_junnosuke/ichigojinjya17.html](http://www.geocities.jp/sizen_junnosuke/ichigojinjya17.html)

備考 少しずれているのは手長神社と相殿だったからではないか。



### 早池峰神社（遠野） ※上記参照

## ■猿田彦神社 - 地蔵院 - 早池峰神社（大迫）

### 猿田彦神社

記紀神話では、アマテラス大神を迎えたのが猿田彦。出会いの地は、五十鈴川の川上だった。つまり…この猿田彦の森（逢阪峠）を指しているとも考えられる。三重県志摩市磯部町恵利  
<http://mintun.exblog.jp/20437075/>

### 地蔵院

延命子安地蔵大菩薩を本尊とする 曹洞宗の寺院 諏訪市大字四賀神戸3294

### 早池峰神社（大迫）

早池峰神社の祭神は、遠野も大迫も共に瀬織津比咩である。しかし大迫の早池峰神社を訪れた時、神社関係者から瀬織津比咩の名前を聞く事はできなかった。ただ「この早池峰の姫神様は、名前を出す事を禁じられた神様でした…。」と。今でもその名残があるのか、関係者の方はただ“姫神様”とだけ答えるのみだった。しかし姫神様は尊称でもある為、敢えて本名である瀬織津比咩の名前を呼ばないのは、尊敬の念から来ているのかもしれない。花巻市大迫町内川目第1地割1



## ■栄野神社 - 田辺御頭御社宮司社 - 早池峰山頂上

### 栄野神社

【延喜式神名帳】江神社 【現社名】栄野神社 二見興玉神社の摂社（飛地境内社）  
三重県伊勢市二見町江

### 田辺御頭御社宮司社

健御名方神 諏訪市湖南515

### 早池峰山頂上 ※上記参照



### 備考

伊勢・志摩の神社は、諏訪の神社と大朝日岳・大沼浮島そして早池峰山から神力を引くために、その延長線上に配置された。探せばたくさんあると思われる。

国譲り後の諏訪神は、建御名方富神とも書く。朝日岳は平安時代に諏訪山と呼ばれ大富観音を祀って

いた。伊勢の方角から見れば諏訪湖の裏山になる。さらに大沼浮島は大富沼と呼ばれていた。やはり国譲りした大国主一族は富一族だったのでは。

やはり、龍神を祀る大朝日岳・大沼浮島、早池峰山は、記紀には載せない、最も重要な、しかし隠しておきたい最大の負け組の聖地なのではないか。